特集

みんなで考える災害対策

～男女共同参画の視点から～

多様な人々が暮らすこの地域で、今もし災害が起き、避難生活を送ることになったら、私たちはどんなことを考え、どんな行動を取ればいいのでしょうか？私たちは、地震、洪水、竜巻などのあらゆる災害から縁遠い場所にいるわけではありません。

性別や世代を超えてみんなで支え合い、非常時の混乱を少しでも減らすために、男女双方の視点をふまえ、災害時のことを考えてみましょう。



２０１１年３月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生し、多くの人が被災しました。さらに今年の４月には熊本地震が起こるなど、震災はいつ誰の身に起こっても不思議ではありません。また、私たちの住む熊谷市は、荒川と利根川という２本の大きな川に囲まれ、台風や集中豪雨の際には十分な対策をとってはいても、水害の可能性に注意していかなければなりません。

災害が起こったとき、どのような対応をとることができるか、日頃から考え備えていかなければ、いざというときに対応ができません。

国では、阪神・淡路大震災以降、防災基本計画を改正し、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制を確立するとしました。しかし、東日本大震災では備蓄品や避難所の運営等、男女のニーズの違いなど男女双方の視点に配慮した対応が不十分であり、多くの問題が浮き彫りとなりました。具体的には、避難所の運営、決定の場に女性が参画していない。授乳や着替え、物干し場等女性への配慮に欠けていた。物資の仕分けは男性、炊き出しは女性といった固定的性的役割分担等、様々な問題点がありました。

その教訓を活かし、熊本地震では男女別の更衣室を設けたり、物資の配布の際には男女で常駐していたり、中には生理用品や女性下着を女性トイレ内や更衣室に設置している避難所もありました。多くの人たちの中に、男女のニーズの違いについて意識する気持ちが生まれてきました。

しかし、まだまだ避難所の運営の場には女性の参画が少ないのが現状です。避難所での生活も生活の営みとしては平時と変わらず、女性の活躍が期待される場でもあるのです。日頃から地域の活動、自治会、町内会等に男女共に参加し、意見を言うことができる多くの女性リーダーを生み出すことも必要になってきます。このような取組みが、災害対策としていざというときの大きな力になるといえるでしょう。



避難所チェックシート

女性や子育て家庭に配慮した避難所の開設

- □ 異性の目線が気にならない物干し場、更衣室、休養スペース等
- □ 授乳室
- □ 安全で行きやすい場所の男女別トイレ・入浴設備の設置
- □ 女性トイレ・女性専用スペースへの女性用品の常備

男女共同参画の視点に考慮した避難所の運営管理

- □ 管理責任者への男女両方の配置
- □ 自治的な運営組織の役員への女性の参画の確保
- □ 女性用品（生理用品、下着等）の女性の担当者による配布
- □ 避難者による食事作り・片付け、清掃等の役割分担
  （男女問わずできる人が分担し、性別や年齢によって役割を固定化しない）
- □ 防犯ブザーやホイッスルの配布
- □ 不安や悩み、女性に対する暴力等に対する相談窓口の周知、男性相談窓口の周知

（内閣府ホームページから抜粋）

避難所の開設・運営においては、男女のニーズの違いや子育て家庭等のニーズに配慮することが必要です。

いざというときのために、チェックシートを確認してみましょう。

地域防災の取組み 「中西地区防災運動会」

もし災害が起きた時、頼りにし、協力していくのは地域の人たちです。しかし、地域コミュニケーションは希薄になるばかり。その流れを少しでも変えたいと動き出した地域があります。

６月５日（日）、中西自治会連合会が主催して「第２回防災運動会」が行われました。会場は地域の避難所に指定されている熊谷東小学校。約４００人の住民が参加しました。

前半は、防災訓練。ＡＥＤを使った心肺蘇生法や、毛布と竹竿を使っての簡易担架づくり、消火器の使い方などを実践しながら学びました。また、地震の揺れを体験できる起震車で震度６強の揺れを体感し、防災意識を高めることができました。

後半は、お楽しみの運動会。防災を意識したバケツ消火リレーやパン食い競走など、幼児からお年寄りまで良い汗をかきながら、親睦を深めました。

当日は、炊き出し訓練も行われ、おにぎりと豚汁が参加者の昼食として配布されました。



主催者に聞いてみました

中西自治会連合会会長　間庭丈志さん

Q防災運動会を開催するきっかけは？

子供会の運動会が廃止になるなど、地域交流の場が少なくなり、つながりが希薄になってきていると年々感じていました。運動会だけだとお年寄りは参加しない。防災訓練だけだと若い人たちは参加しない。だったら、一緒にやってみよう、ということになったわけです。

Q防災運動会の目的は？

一つは、防災意識の向上です。ＡＥＤや消火器を実際に使って体験してもらうことで、実践感覚を身に付けてもらいました。

二つ目は健康の維持、増進です。滅多に外に出ないお年寄りにも、「炊き出しのおにぎりだけでも食べに来れば。」と声をかけ参加してもらいました。「走れない。」と言っていた年配の方が、パン食い競走で走っているのを見てびっくりしました。日頃運動不足のお父さん、お母さんも子どもと楽しそうに競技に出場してくれ、健康増進に一役買うことができたかなと思っています。

三つ目は、地域コミュニティの活性化です。炊き出しのおにぎりや豚汁を食べながら、ご近所の方たちとおしゃべりしたり、笑ったり、なごやかな交流の場となりました。

Q防災運動会を振り返っていかがでしたか？

当初、「炊き出しでおにぎり１０００個と、４００人分の豚汁なんて作れるの？」と声が上がっていました。当日「民生委員やお手伝いの方達がこうやったら早く作れるのでは。」と意見を出し合いながら、役割分担して予定より早く作業が終了しました。男女皆で力を合わせ、アイディアを出し合いながら運動会の準備や炊き出しの訓練をすることが、災害時にもきっと役立つと感じました。

終わった後、「楽しかった。またやってほしい。」という声も聞きました。来年もまた継続できればと思っています。



「With You さいたま 出前防災セミナー」

東日本大震災以来、防災に女性の視点を生かすことの大切さが指摘されています。震災で女性や子ども、高齢者はどんな困難に直面したのか。この困難を乗り越えるために必要な備えとは何か。あなたの地域にうかがい、共に考えます。

（出張例）自治会、自主防災会、子育てサークル、学校など。

※出前セミナーは無料です。お電話でご相談ください。

【問い合わせ先】
埼玉県男女共同参画推進センター
（愛称：With　You　さいたま）
TEL 048-601-3111

市の防災備蓄品

市では、いざというときのために必要なものを備蓄品として保管しています。ここでは、その一例を取り上げます。

品　名	個　数	品　名	個　数
アルファ米（白飯）	17,000 食	粉ミルク（アレルギー用）	128 缶
アルファ米（白かゆ）	5,700 食	災害用ワンタッチテント	60 個
はんぶん米（アレルギー対応）	2,000 食	災害用トイレ（車いす対応）	87 基
飲料水（500ml）	5,376 本	生理用品（水解性含む）	22,120 枚

食料品はアレルギーに対応した食材、災害用ワンタッチテントは更衣室として使用できるよう、成人が立って入ることができるものとなっています。また、上記の他にも様々なものが備蓄されています。

しかし、備蓄品は数に限りがあり、また、災害の備えは「自助」が基本です。まずは、ご家庭で災害時必要になるものについて、備えを確認してみましょう。

男女共同参画と防災という、一見何の関わりもないような二つの言葉。実は災害時には欠かせない大切な観点だということがわかりました。女性、男性それぞれに不自由さや悩みがあるもの。みんなで協力し話し合っていくことが大切です。

そしていま、私たちがするべきことは、過去の災害から教訓を学び、自分の命を守る「自助」と、助け合う「共助」の備えをすること。家庭で、地域で、できることから始めましょう。